

## 令和4年度 組織目標（部局目標）



部局名 文化スポーツ部

NO.	項目名
1	文化芸術の力で心豊かな活力ある滋賀を創る
<b>背景・課題（取り組むべき理由）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3年3月に「滋賀県文化振興基本方針（第3次）」を策定し、この方針の3つの施策の柱である「場をつくる」「人を育む」「地域や社会に活かす」に沿って、文化振興施策を総合的に推進する。</li> <li>・令和3年3月に策定した「美の魅力発信プラン」に基づき、多様な「滋賀の美の魅力」の発信を、県立美術館を拠点として県内の幅広い主体との連携のもと力強く進めていく必要がある。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症拡大防止対策が長期化し、不安や閉塞感が漂う中、心のやすらぎをもたらす豊かな感性を育む文化芸術に親しめる機会の創出が求められている。</li> </ul>	
<b>目標（今年度末に目指す状態）</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 国籍や年齢、障害の有無、経済的な状況、居住する地域等にかかわらず、誰もが文化芸術活動に触れる、親しんでもらえる機会を提供するための環境の整備 （1年間に文化芸術を鑑賞したことのある県民の割合 79.4%）</li> <li>2 県立美術館において、新型コロナウイルス感染防止に配慮した上での充実した運営を通じて、県内外の多くの人々がコレクションをはじめ多様な美術に出会える機会を提供している。 （美術館利用者数 84,000人（展覧会70,000人+教育・交流事業14,000人））</li> <li>3 公園利用者を増やすため公園全体の魅力向上を目指す「希望が丘文化公園活性化方針」を策定</li> </ol>	
<b>取組内容（事業内容）</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 誰もが文化芸術を楽しめる環境づくり                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちが優れた舞台芸術に触れる機会を提供（ホールの子事業）</li> <li>・障害者の文化芸術活動を支える拠点づくりを推進</li> <li>・コロナ禍における文化芸術活動の主催者の活動継続を支援</li> <li>・文化芸術活動関係者がつながる場の創出および文化芸術の多様な価値を地域づくりや他分野に活かす取組を推進（心をつなぐ文化芸術活用事業）</li> </ul> </li> <li>2 県立美術館を拠点とした「滋賀の美の魅力」の発信                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・コレクションや滋賀の多様な美の紹介を軸とした展覧会を開催</li> <li>・美術館内に設置した美の発信のプラットフォームが推進母体となり、幅広い連携により滋賀の美の魅力を発信</li> <li>・美の魅力の発信を通じた文化ツーリズムを推進</li> </ul> </li> <li>3 ところを健康にする魅力ある公園づくり                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・びわこ文化公園を、アートや滋賀の文化に触れることができる公園として発信し定着させ、賑わいを創出（カルチャー・パーク事業）</li> <li>・「自然×憩い×スポーツ」で、訪れる方の心と体が健康に、そして元気になる公園を目指し、希望が丘文化公園の活性化方策の検討を推進</li> </ul> </li> </ol>	

## 令和4年度 組織目標（部局目標）



部局名 文化スポーツ部

NO.	項目名
2	保存と活用の好循環を生み出す文化財行政の推進
背景・課題（取り組むべき理由）	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文化財の保存と活用はいわば車の両輪であり、守るものの価値が理解されなければ守ろうとする意識も生まれない。文化財が持つ魅力や価値、滋賀の歴史・文化を発信し、みんなで文化財の保存継承を支え合う地域づくり・人づくりを進める必要がある。</li> <li>・ 彦根城の世界遺産登録が実現すれば、彦根城だけでなく、広く滋賀県や文化財の魅力発信等の強化につながることから、早期の登録を目指す必要がある。</li> <li>・ 築城450年にあたる令和8年をターゲットイヤーと位置づけ、謎に包まれている安土城への注目を集めるため、安土城の実像解明を進める必要がある。</li> <li>・ 本県が誇る貴重な文化財を後世に継承するため、現在休館中の琵琶湖文化館について、開館に向けた取組を着実に進める必要がある。</li> </ul>	
目標（今年度末に目指す状態）	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幅広い世代や地域を対象とした「文化財の保存と活用の好循環」の形成 （文化財の魅力発信のための講座・セミナー等 50回以上（うち県外向け活用事業 10回以上）、参加者数 3,500人以上）</li> <li>2. 彦根城世界遺産登録に向けた国内推薦決定 （ユネスコへ提出するための世界遺産登録推薦書等の確定版の完成、国際会議の開催（2回）、シンポジウムの開催（2回）、ホームページの多言語化）</li> <li>3. 「幻の安土城」復元プロジェクトの着実な進展 （特別史跡安土城跡整備基本計画の完成、デジタル技術を活用した「幻の安土城」見える化基本設計の完成、安土城考古博物館展示実施設計の完成）</li> <li>4. （仮称）新・琵琶湖文化館基本計画の着実な進展 （PFI手法による入札公告の実施、県民フォーラムの開催）</li> </ol>	

## 取組内容（事業内容）

- 1 文化財の保存と活用の好循環の形成
  - ・計画的な文化財の保存修理の実施
  - ・滋賀の文化財の魅力を県内外に広めるための取組（「近江の城」魅力発信事業、“輪でつなぐ”滋賀の文化財講座、埋蔵文化財の魅力発信事業、打出のコツチ、出張！お城 EXPO 等）
- 2 彦根城世界遺産登録に向けた取組
  - ・機運醸成に向けた取組（シンポジウムの開催、専用ホームページの多言語化等）
  - ・学術会議、国際会議の開催
  - ・世界遺産登録推薦書等の作成（推薦書原案の完成度向上、英語版の作成、付属資料の作成、映像版の作成等）
- 3 「幻の安土城」復元プロジェクト
  - ・特別史跡安土城跡整備基本計画の策定
  - ・安土城見える化基本設計の作成
  - ・安土城考古博物館展示実施設計の作成
- 4 （仮称）新・琵琶湖文化館の整備に向けた取組
  - ・「滋賀県 PPP/PFI 推進ガイドライン」に基づく PFI 手法による入札公告の実施
  - ・（仮称）新・琵琶湖文化館の整備に向けた機運の醸成（県民フォーラムの開催）

## 令和4年度 組織目標（部局目標）

部局名 文化スポーツ部



NO.	項目名
3	スポーツで滋賀を元気に！
背景・課題（取り組むべき理由）	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 平成30年3月に策定した第2期滋賀県スポーツ推進計画が今年度で最終年（5年目）を迎えることから、令和5年度から始まる次期滋賀県スポーツ推進計画を策定する必要がある。</li> <li>2 びわ湖毎日マラソンの本県での開催終了を受け、同大会が果たしてきた本県のスポーツ振興や滋賀の魅力発信を継承する新しいマラソン大会の開催が期待されており、大会内容について昨年度から検討を進めている</li> <li>3 コロナ禍の中で、令和3年度の運動・スポーツ実施率は昨年度より3.3ポイント上昇し52.0%となったものの、働き盛りの世代や女性の実施率が低いこと目標達成に至っていない。また、障害者の運動・スポーツ実施率は28.9%で健常者の実施率よりも低位となっており、2025年の国スポ・障スポ大会に向けてスポーツの機運を高めていく必要がある。</li> <li>4 新マラソン大会や国スポ・障スポ大会など大規模スポーツ大会の成功にはボランティアの活躍が不可欠であり、その中心となる人材を養成する必要がある。</li> </ol>	
目標（今年度末に目指す状態）	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 第3期滋賀県スポーツ推進計画の策定</li> <li>2 令和5年3月に新マラソン大会（びわ湖マラソン）を開催</li> <li>3 成人の週1回以上の運動・スポーツ実施率（令和4年度調査）65%の達成</li> <li>4 スポーツイベントにおけるボランティア参加者数 延べ2,000人の達成</li> </ol>	
取組内容（事業内容）	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 次期滋賀県スポーツ推進計画の策定                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・第2期県スポーツ推進計画の成果やコロナ禍による影響、東京オリ・パラの開催、2025年に本県で開催する国スポ・障スポ大会等を踏まえ、県スポーツ推進審議会の議論を経て次期滋賀県スポーツ推進計画を令和5年3月までに策定する。</li> </ul> </li> <li>2 びわ湖マラソン大会の開催                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・びわ湖マラソン大会実行委員会を早期に設置し、マラソン大会の告知（6月）や参加者募集（7月）などの諸準備を着実に進め、マラソン大会を安心・安全に開催する。</li> </ul> </li> <li>3 運動・スポーツ実施率の向上                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康医療福祉部等と連携して気軽に取り組むことができるウォーキング事業や自宅でも気軽に取り組むことができるオンライン運動教室等を開催するほか、プロスポーツチームと連携して試合会場やSNS等で運動習慣に関する情報を発信し、働き盛りの世代や女性の運動・スポーツの習慣化につなげる。</li> <li>・総合型地域スポーツクラブ等と連携し、障害者が身近な地域で運動に取り組むことができる障害者スポーツ教室等を開催し、障害者スポーツのすそ野拡大に努める。</li> </ul> </li> <li>4 スポーツボランティアの養成                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・県内スポーツ関係団体やプロスポーツチーム等と連携して、ボランティア登録者を対象とした研修会や交流会等を実施するとともに、スポーツ大会等主催者への積極的な働きかけを通じて幅広い活動の機会を確保・提供し、ボランティア参加者2,000名を目指す。</li> </ul> </li> </ol>	

## 令和4年度 組織目標（部局目標）

部局名 文化スポーツ部



NO.	項目名
4	国スポ・障スポの着実な準備
背景・課題（取り組むべき理由）	
<p>国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会の開催に向けて、今年度は開催が正式に決定される節目の年であり、今後準備業務がより一層本格化する中、施設整備、機運醸成、競技力向上など、市町や関係団体と連携して着実に準備を進めるとともに、コロナ後の両大会の在り方について検討する必要がある。</p>	
目標（今年度末に目指す状態）	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 認知度向上 イメージソングの活用を通じて、大会認知度を 55%に向上し、国スポ・障スポ開催を多くの県民にとって身近なものとする。</li> <li>2 着実な施設整備 国スポ・障スポで使用する県立施設および（仮称）草津市立プールについて、選手強化や大会準備を見据えて計画的な整備を進める。</li> <li>3 滋賀らしい大会運営 参加する選手等の負担軽減を念頭に簡素効率的な式典運営や環境にやさしい大会開催を目指し、市町とともに一層の準備を進める。</li> <li>4 競技力向上対策 栃木国体で天皇杯順位 10 位台への進出を達成するとともに、次世代アスリートの育成や 2025 全国障害者スポーツ大会に向けた選手およびスタッフの拡充を行う。</li> </ol>	
取組内容（事業内容）	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 認知度向上 <ul style="list-style-type: none"> <li>・県や市町が行うイベントに出向き、来場者に啓発を行うことをはじめ、広報誌の発行、メディア、屋外広告など様々な手法で、マスコットキャラクター・愛称・スローガン・イメージソングを活用した広報・啓発活動に取り組む。</li> <li>・加えて、今年度は本県での開催が決定する節目の年であるため、これを契機として開催決定を記念したイベントを開催するなどさらなる周知が図れるよう取り組む。</li> <li>・広報・県民運動の推進に当たっては、より効果的に展開できるよう市町、関係団体と密に連携するとともに、マスメディアに取り上げられることにも意識して取り組む。</li> </ul> </li> <li>2 着実な施設整備 <ul style="list-style-type: none"> <li>・（仮称）彦根総合スポーツ公園、滋賀アリーナといった県立施設については、それぞれの供用開始に向けて、着実に整備を進めるとともに、（仮称）草津市立プールをはじめとする市町所管の会場施設の整備については、進捗状況を把握しつつ、補助制度を通じて支援する。</li> </ul> </li> </ol>	

### 3 滋賀らしい大会運営

- ・本県の開・閉会式の式典時間の短縮や演出方法などについて具体的に検討を進め、従来方式の開・閉会式の規模や内容、実施方法等の見直しに着手する。
- ・見直しの方向性も踏まえ、式典基本計画の作成を行う。

### 4 競技力向上対策

- ・各競技団体の戦力分析をもとに「成年選手確保計画」を策定し、「スポーツ特別指導員」をはじめとする雇用主体毎の計画的な選手の獲得につなげるとともに、トップアスリートの強化活動に対する支援や医科学サポートの充実を図る。
- ・競技力の高いターゲットエイジ強化選手が県内に留まるよう、所属中学校に情報提供を行い、早期の情報伝達が行われるよう働きかけるとともに、高校進学後も県内で充実した強化活動に取り組めるよう支援の充実を図る。
- ・2025 全国障害者スポーツ大会に向け、令和3年度に取りまとめた「選手・スタッフ構想」に基づく必要なスタッフの確保に向け、関係機関への働きかけを行う。



•Ü ~ ÛG ¼BÜž\*ÚµÜž+

# CO<sub>2</sub> ネットゼロ

Úµ¼ ü1=a H Ú

NO.	æÜ¼
™	(èÝ ¬ - QGL@q)ÿ
Q>* ¼ P[ +	
<p>~Qø •Ü-Û•8ÿ(èÝ ¬ - QGL@q)d ZewLÿ1G3.Yfh#          Üé÷ 2050 Û ø ü¿,1½ýN^âá@qüê äù #Üšè÷ ¼ A          #®,üÈèð          ¬ - QGL@qÿâe ü!â÷ Q±µ ù ÿÚ  \$#ùèùù ü ¬ - QG          L@q ÿ¹‡ # /ùè ðô™ù 5 òe° ÿ&lt;ªûYô#ÅNê ð Ó          žZð!ø ¼#&amp;}è QÝd€è÷ ¼ “B#È ê'5ÝÓ</p>	
Üž* ÛG~üÜšêÑ*+	
<ul style="list-style-type: none"> <li>¬ - QGL@qü tèðü1 =a H(]wLgÿÕÚÿâÿ</li> <li>- ü1 =a H(]wLgüÛÕ÷t7ôü\$ê ¬ - QGL@qü ¼èðì77 è</li> <li>— à¯ü ô™Ú *y3 ¨ÿSbg+ÿâÿ</li> </ul>	
¼®\$*,´®\$+	
<ul style="list-style-type: none"> <li>• ü1 =a H(]wLgÿ ^• ÕÚ          ¬ - QGL@q#Üšèð xbmAw;eÿ}) * ¬ - QGL@qü!âð          ¼ÿ ²P*~+#RFÿÁ ;e#})ê îäøœðR*S*#Y' MTG3          èð ²P*àFO+#7£+          ð SHIGA?à÷=a ¿=aü õÕ÷ ¬ - QGL@qòeöà # ê ~Q          ü æ èÕ;eü!âðlp          Qøâžê Üÿe (]wL &amp;UegüÛ â [m=EG3â ÿSb ¬ - Q          GL@qü³ê ^• ÕÚ          ¼,´ÿ )ô ÿ ¬ - QGL@q#•Ñèð^• ÕÚÿn Üâ</li> <li>- ü1 =a H(]wLgüÛâ ì77è          Q ),´ ¼,´üÛâ Üÿe (]wL &amp;Ue g ÿt7ôü\$è÷ '           šÜ/ ÿV/ÿn Üâ# üê          Q®[q=a HE dÿ_ d6 dgüÛâ ¬ - QGL@qü ¼èðì77 è          šúù[òù¼ èð ¼ÿ *šúù[ò ÿì7 •g+</li> <li>— à¯ü ô™Ú ÿâÿ          ,³ *(síg+ÿ.wm(w1          eRÿ^ U p=1          ´çÿ eRÿi. °/          ! ± #°/èð,´ÿâž*t7ô+6üÛâ ! ± °/ûú+</li> </ul>	